

機関番号：14301
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20791663
 研究課題名（和文） 日本人看護師の国際移動に関する研究
 : 看護人材の有効活用に向けた現状把握
 研究課題名（英文） Study on international movement of Japanese nurses
 : understanding actual situation for efficient use of nurses
 研究代表者
 千葉 陽子（CHIBA YOKO）
 京都大学・大学院医学研究科・助教
 研究者番号：80432318

研究成果の概要（和文）：

【背景】わが国看護界で国際的知見が不可欠な中、海外活動をする日本人看護師もいるが、全体像は明確でない。【目的】看護師国際移動の世界的動向・日本の位置づけと、日本人看護師の海外渡航の特徴の把握。【方法】看護系英語文献のレビューと日本人看護師への横断調査。【結果および成果】世界の看護師が需要供給ニーズにより主に開発途上国から先進国へ移動している中、休暇・観光以外で海外渡航経験がある日本人看護師は約1割であった。看護教育の高学歴化、看護師の英語能力向上、看護の専門化等に伴い今後海外渡航希望者が増える可能性があり、希望者のキャリアデベロップメント、帰国者の能力活用等の検討が必要である。

研究成果の概要（英文）：

[Background] International activities among Japanese nurses have not been systematically analyzed despite the increased demand for global views in nursing society in Japan. **[Purpose]** To capture the characteristics of overseas experiences among Japanese nurses based on the world trend in international nurse migration and Japan's position in that trend **[Methods]** Systematic review of English articles on international nurse migration and a cross-sectional to Japanese nurses **[Result and achievement]** Nurses in the world are migrating mainly from developing to developed countries by the needs for supply and demand on nursing workforce. Only 10% of Japanese nurses who were surveyed had past overseas experiences (except for holidays and sightseeing), and more nurses will go overseas if they attain advanced academic degree, better English proficiency and higher specialization in nursing. Career development of nurses who want to go abroad and efficient use of nurses who have foreign experiences should be explored.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	121,416	36,424	157,840
2009年度	2,078,584	623,575	2,702,159
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,100,000	929,999	4,029,999

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護師，海外・国際，キャリアラダー，キャリアデベロップメント

1. 研究開始当初の背景

(1) 急速に少子高齢化が進むわが国で今後看護師の需要が更に高まっていく中、看護人材の確保は国家の重要課題の一つである。近年、海外からの看護師補充も注目されているが、逆に日本人看護師が海外渡航している実態はあまり注目されていない。

(2) わが国看護界の研究・教育・臨床実践においては、国際的知見が不可欠になってきており、自己のキャリアラダーの中で活動場所を海外に求める看護師が存在する。日本人看護師による海外活動の報告は認められているが、全体像を系統的にまとめて分析されたものはない。

2. 研究の目的

(1) 看護師国際移動の世界的動向と日本の位置づけの把握：

看護師の国際移動に関する海外の看護系英語文献をレビューすることにより、世界の動向とその中での日本の位置づけを把握し、日本人看護師の国際移動に関する研究へのより具体的な指針を得る。

(2) 日本人看護師の海外渡航経験の特徴の把握：

横断的調査によって日本人看護師の海外渡航経験の概要をとらえ、今後の海外渡航希望、その実現可能性を把握する。このことにより、海外渡航経験のある看護師の有効活用や海外渡航希望者へのキャリアデベロップメントへの対応など、看護教育・管理担当者への参考指針を示す。また、本分野の更なる研究に対する方向性をつかむ。

3. 研究の方法

(1) 看護師国際移動の世界的動向と日本の位置づけの把握：

① 文献検索：選定基準

- ・ データベース：CINAHL, MEDLINE, PubMed
- ・ 検索語：international & nurse & migration
- ・ 包含基準：抄録あり，英語論文，発行年2005年以降
- ・ 簡易レビューによって関連性の低いものを除外して対象論文を選定

② 文献レビュー：複数のレビューアーが以下の項目を抽出

- ・ 属性（刊行年，雑誌名，第一著者の所属機関，所属機関の所在国名，論文タイプ）

- ・ 看護師需要国名・供給国名，これらの国の英語表記
- ・ 看護師の国際移動理由
- ・ 日本に関する記述

③ 考察：研究代表者を中心に文献レビューの結果を考察し，特に看護師の国際移動にあたっての日本・日本人の現状や位置づけを確認した。

(2) 日本人看護師の海外渡航経験の特徴の把握：インターネットによる横断的調査

① リサーチモニターのうち，自己の職業を「看護職（看護師・保健師・助産師・准看護師）」として登録している者2,029名に対し，インターネット上で自記式質問調査を実施。

② 調査内容：看護師の背景因子，英語能力自己評価，過去の海外渡航経験，休暇や観光以外での「将来の海外渡航希望の有無」，「希望の実現可能性の有無」

③ 背景因子や過去の海外渡航経験を単純集計した後，「将来の海外渡航希望の有無」と「希望の実現可能性の有無」を目的変数，背景因子を説明変数として多重ロジスティック回帰分析を行い，それぞれ「有」と回答した者の背景因子ごとのオッズ比を求めた。

4. 研究成果

(1) 看護師国際移動の世界的動向と日本の位置づけの把握：

看護師の国際移動は，主な看護師需要国の研究者，国際機関や各国の看護職団体に所属する者によって論じられており，政治，ヘルスサービス，ヘルスリソース，看護管理などを扱う雑誌で取り上げられていた。これは，本テーマは政治経済や倫理，各国の看護教育や資格，移民制度や就職斡旋機関の介在などを含めた幅広い議論が重要で，国家レベルでの比較や考察が必要なためと考えられた。また研究論文は全体の4分の1強であり多くなく，看護師の流動性や移動パターン・理由の個別性などにより研究対象の把握が難しいことが原因ではないかと推測された。

看護師需要国は先進国，供給国は主に開発途上国で一部先進国を含んだ。これらの国の英語表記は，中立的な語の使用回数が多かったが，需要国側がより裕福で発展し，供給国側が貧しく発展途上という社会経済レベルの差を表わす語も認められた。先進国が供給国に含まれている理由の一つとして，移動看護師には移民層も含まれることがあった。また看護師需要国・供給国のほとんどでは英語が国語，公用語，共通語で，複数国で使用可能な仏語，アラビア語，中国語が話されている国もあった。言語能力は，看護の場面だけでな

く日常生活でも必要で、看護師需要国・供給国間の言語の共通性は看護師の国際移動に影響する重要因子と考えられた (表 1)。

表1 看護師需要国・供給国と英語表記

国名	需要側	記述回数
United States of America (USA)		28
United Kingdom (UK)		22
Ireland		12
Australia		12
Canada		7
New Zealand		6
Saudi Arabia		5
Other: Singapore, Switzerland		各3
英語表記		
Destination countries		18
Developed countries		15
Host countries		7
Receiving countries (nations)		4
Recipient countries (nations)		3
Rich countries		2
Other: Adopted country, Advanced countries, Beneficiary countries, Demand side, Industrialized countries, Importing countries, Prosperous countries, Recruiting countries		各1
供給側		
Philippine		20
India		14
United Kingdom (UK)		10
South Africa		9
Australia		7
Canada		6
Other: China, New Zealand, Nigeria, United States of America (USA)		各5
英語表記		
Source countries		22
Developing countries		16
Supply countries (nations, side)		3
Donor countries		3
Country of origin		2
Poor countries		2
Sending countries		2
Other: Low income countries, Provider countries, Undeveloped countries, Unfamiliar industrialized countries		各1

看護師の国際移動理由は、国家レベルでは看護師の需要供給ニーズが移動の原動力であっても、看護師個人のレベルでは、キャリアアデベロップメントや、生活や生存での安定や安全を求めて移動していた (表 2)。そして、実際の移動理由はこれら多くの要因が複雑に絡み合い、個別性の高いものであると考えられた。また、看護師の国際移動理由は概ね看護師以外の移民にも当てはまる内容と思われたが、感染症への暴露という医療職ならではの問題点が看護師の生存 (健康) を脅かし、国際移動の推進要因となっていることは注目に値する。

抽出論文文中での日本の記述は少なく、主にフィリピンとの関係で看護師需要国となっていた。イギリスへの看護師供給国の側面もあったが、外国人看護師全体に占める割合は極めて小さかった。実際わが国では、平成 20 (2008) 年度にインドネシア、平成 21 (2009) 年度にフィリピンからの看護師・介護福祉士

候補生の受け入れを開始しており、日本語での看護師国家試験合格者数を含めた実態はまだ今回の検索論文中には報告されていない。今後の英語論文では、このような実態の紹介を含めた日本の現状が紹介されていくことが考えられた。

表2 看護師の国際移動理由

Push factors (Country of origin)	Pull factors (Destination country)
Economic migrant	
低賃金 (貧困の中での生活)	良い賃金: 家族への送りや老後の蓄え
失業: 就労機会の欠如	安定した雇用
Quality of life migrant	
貧困の中での生活	よりよい個人の生活環境
	より効率的で公正な社会システム
	雇用の安定と福利厚生 (退職後も)
	自国同様の文化や言語
Career move migrant	
就労機会の欠如	安定した雇用
劣悪な労働環境: リソース不足・危険	よりよい労働環境
重労働: 看護師1人に対する患者数が多い	
支持的指導体制の欠如	
看護師としての成長・昇進機会の欠如	看護師としての成長機会・継続教育
職場の意思決定への参加不可能	
仕事への満足度やモラルの低下・ストレス	
Survival migrant	
不安定で敵対的な社会・政治的状態	安全な生活環境 (自己と家族にとって)
仕事関連リスク: 感染症への暴露や職場暴力	よりよい労働環境
Partner (family-related) migrant	
配偶者の外国赴任・移住	配偶者との生活
家族の外国移住	既に移住した家族との合流・再会
	家族のよりよい教育・雇用機会
Adventure migrant	
冒険心・異なる環境へのあこがれ	異文化の体験

(2) 日本人看護師の海外渡航の特徴の把握:

有効回答数は 2,029 名中 1,040 (51.2%) で、このうち韓国籍の者 1 名を除く 1,039 名 (51.2%) を分析対象とした。

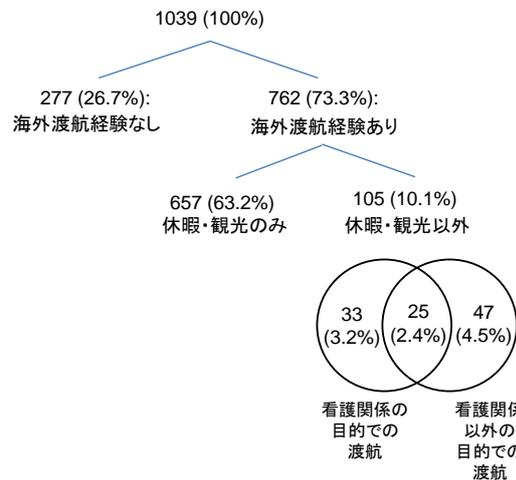


図1 日本人看護師の海外渡航経験

過去の海外渡航経験 (図 1) は、休暇・観光以外での海外渡航経験者が全体の約 1 割で、「高所得国」(世界銀行の所得基準) への渡航が 8 割を占めていた。渡航目的は研修、インターンシップ、語学研修などの一時的プログラムへの参加者が多かった。

女性看護師 938 名のうち（有効回答数の 90.3%，家庭での性別役割の違いなどを考慮して男性を除外）、「将来の海外渡航希望有」の者は 478（51.0%）、「渡航希望の実現可能性有」の者は 178（19.0%）であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、「将来の海外渡航希望有」の中では、最高学歴が学士以上の者、休暇・観光以外での海外渡航経験者、英語自己評価が高めの者（4 段階評価で 2 か 3）、看護専門分野がある者のオッズ比が有意に高く、より多く「将来の海外渡航」を希望していた。また「渡航希望の実現可能性」は、休暇・観光以外での海外渡航経験者、英語能力自己評価が高い者（4 段階評価で 2, 3, 4）のオッズ比が有意に高く、末子の年齢が 0～18 歳の者のオッズ比が有意に低かった。

今後わが国で看護教育の高学歴化、看護師の英語能力の向上、看護の専門化が進めば、海外渡航希望者が増える可能性があるが、言語や家族因子などを鑑みると、長期的な渡航者は少ないと推測された。海外での経験は日本人看護師のリフレッシュや知識・技術の向上に繋がり、帰国者による日本の看護への貢献が期待されると考えられた。看護教育者や管理者は、海外渡航希望者のキャリア開発への対応、帰国看護師の能力有効活用等を具体的に検討する必要があると示唆された。

本調査は、これまでに取り上げられたことがなかった「非英語圏・先進国」の看護師の国際移動の特徴を明らかにしたという点で、国内外でのインパクトがある。今回、看護師個人に直接依頼できるインターネット法を用いたが、モニター利用による抽出バイアスの可能性は結果の一般化にあたり留意すべきである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）
投稿準備中

〔学会発表〕（計 1 件）

- ① 千葉陽子他、看護師の国際移動に関する英語文献のレビュー：日本人看護師の国際移動について考察するために. 第 41 回日本看護学会（看護総合）学術集会，平成 22 年 7 月 17 日. 山口市.

5. 研究組織

(1) 研究代表者

千葉 陽子 (CHIBA YOKO)
京都大学・医学研究科・助教
研究者番号：80432318

(2) 研究協力者

中山 健夫 (NAKAYAMA TAKEO)
京都大学・医学研究科・教授
研究者番号：70217933

文献レビュー協力者

五十嵐 稔子 (IGARASHI TOSHIKO)
奈良県立医科大学・医学部看護学科・准教授

家曾 美里 (KASO MISATO)
前京都大学大学院医学研究科・社会健康医学系専攻（当時）

野々口 順代 (NONOGUCHI MASAYO)
JICA アフガニスタン事務所・企画調査員（当時）